

# OB会報

湘南サッカー一部 OB会報 第32号



## ボールとの再会

OB会副会長 45回生

横山 雅行

再びボールを追いかけ始めてから12年が経つ。きっかけは毎年11月23日に行われるFUSサッカー交流会に呼ばれたからだ。この大会は旧制中学・高等師範時代にサッカーで活躍された各校OBの方々が集まり昔を懐かしんで試合をして交流を深め合うことから始まった。現在は湘南・筑波大附属・神戸の三校でFKSサッカー交流会となっている。満50歳になると参加出来る由緒ある大会である。我々の代も資格を得てお誘い頂いたので、のこのこと出かけて行った。50になったとは言え周りは昔怖かった先輩ばかりどう振舞えばいいのかと心配していたが、30数年経ってみると皆さんほんとに優しい方々ばかりになっていて暖かく迎えてくださった。やっぱりサッカーは観るよりやった方が楽しいものだと思ってしまう。感じ直したボールとの再会であった。

その後同期と一緒にベガサスへ誘われたのをいいことに、調子に乗って本当に不安であったが第二のサッカー時代に突入してしまった。高校2年の冬に体

を壊しわずか1年8ヶ月のサッカー部生活。現役時代中さんには「お前は前になるしか能がないんだぞ」「腹出して走るな」・・・と叱責され続けた下手くそな私。ベガサスメンバーの皆様には本当に迷惑な新人だったと思う。そんなへボ新人がいたにもかかわらず加入最初の五十雀リーグで優勝という素晴らしい経験をさせてもらい、更に香川で行われたスポレク大会に神奈川代表で出場できたのは私にとって夢みたい出来事であった。

高校の時は病気でサッカーを諦めたのだったが、再開の原因も病気だった。15年ほど前のことだったが突然右足が痺れだし、そのうち両足の自由が利かなくなり入院。整形外科から脳外科に回され色々検査された結果、脊髄腫瘍の診断で翌週手術、車椅子を覚悟するよう宣告された。一週間の待機中、暇つぶしのリハビリでなぜか足の力が回復し始め、手術は急遽ストップ。結局40日ほど入院し、最後はステロイド剤の点滴で脊髄腫瘍を疑う影が消えた。検

査・検査の挙句最終的な診断は難病と言われる「多発性硬化症」。幸い悪化せず沈静化したようである。その後足の筋力も回復し日常生活には障害は無くなったがまだ右足の筋力は左足の半分程度である。再発の可能性もあったのでリハビリと言っては失礼な話だがボールが蹴れるなら今のうちにやってみるかときっかけになったのが前回のFUS大会だった。

ベガサスに入ってつくづく思ったことは皆さんほんとにサッカーが好きなんだなということ。遠征時の宿舎ではサッカー談義で夜遅くまでワイワイガヤガヤ。普段の試合の時も含めて仕事の話は殆ど無い。プレーでは全く役に立たないのでせめて裏方でもと思っていたせいか、いつの間にかベガサスの庶務係になっていった。現在ユニフォーム管理係及び宴会部長を拝命。毎朝会社でパソコンを開きサッカー関連のメールチェックから一日が始まる。試合が近づくところの60チームの出欠登録のチェックをして出席が少ない時は勧誘業務。下手をすると午前中サッカー漬けのときもある。日程表などをプリントアウトすると社員が「またですか」と言う顔でニヤニヤしながら持ってくる。こないだ加減で会社は大丈夫かと自分でも不安になるがやっぱりメインはサッカー業

務になってしまふ。まあいいかと自分を納得させる毎日である。

サッカーから離れているOBの皆様。今からでも決して遅くはありません。サッカー部の落ちこぼれだった私がまたボールを蹴れるなんて・・・全く想像もしていなかったのです。以前に岡本行夫先輩が「原っぱで遊べない大人たち」とおっしゃっていましたが、そんなことは言わずに皆さんまたボールを蹴りに来てみませんか。



## ビーチサッカー

### 全国で三位に

79回生 櫻井 大輔

こんにちは。79回生の櫻井大輔です。自身が代表を務める、湘南高校サッカー部OBを主体としたチーム「湘南SPREAD1545」が、今年のJFA全国ビーチサッカー大会で第三位という成績を収めました。

今回、OB会報の紙面をお借りし、ビーチサッカーについて、またチームの活動について、ご紹介させていただきます。

ビーチサッカーは、FIFAが第三の

サッカーと位置づけ、普及を進めるスポーツです。ルールを簡単に説明します。

ビーチサッカーはその名の通り、砂浜上で5対5にて行います。コートは、縦37m、横28mとフットサルコートよりも横が若干広く、ゴールは少年サッカー用ゴールに近い(高さ2.2m×横5.5m)サイズです。また、試合時間は、12分ブレイクタイム3ピリオドで行います。

コートの広さに対して、ゴールが大きいこともあり、1試合平均8ゴールが入る、シュートゲームが繰り返されます。また、砂浜は凸凹が多いため、ボールを空中で扱うことが多く、ジャンピングボレーやバイシクルシュートなどアクロバティックなプレーが多いのも魅力です。

ビーチサッカー自体の認知度はまだまだ低いですが、スポーツとして大きな可能性を秘めています。ビーチというロケーション、アクロバティックなプレー、それらに融合する音楽は、このスポーツの魅力です(FIFAビーチサッカーワールドカップでも音楽を流しながら試合をしています)。

発祥の地はブラジルで、ここ10年で急激に普及してきているニュースポーツです。世界では、ブラジル、スペイン、イタリア、スイス等、プロリーグを持つ国があり、ケーブルテレビのESPNで

は、ビーチサッカーの試合が放送されています。

日本では、日本代表監督をラモス氏が務め、ブラジルから日本人に帰化したオズ選手が、バルセロナのビーチサッカーチームで活躍するなど、近年注目度が高まっています。しかしながら、日本には、まだプロリーグはなく、各地域のリーグが徐々に整備されてきている段階です。日本の競技人口は2万人といわれており、少しずつ拡大しています。

このようなビーチサッカーの世界で、ビーチサッカー専門チーム「湘南SPREAD1545」を2006年に設立し、現在まで活動を続けてきました。中心メンバーは神奈川県立湘南高校サッカー部OBで、79回生の櫻井大輔、田口陽介、池田大介、小泉真孝、80回生の橋本諭、82回生の渋谷龍一が中心メンバーです。神奈川県藤沢市に本拠地を置き、湘南海岸(鵠沼、平塚など)で日々練習を行っています。

今年、関東大会で準優勝という成績を収め、JFA主催の「第8回全国ビーチサッカー大会」(10月18日〜20日/沖縄県・宜野湾トロピカルビーチ)へ出場。全国大会では、全勝で予選を通過し、初出場第三位という成績を収めました。

ビーチサッカーの素晴らしさを伝えるため、湘南SPREAD1545は普及活動にも積極的に取り組んでおり、リーグへの参加、一般向けの体験会の実施、イベント運営などを行ってきました。

今年で2年目となる東日本ビーチサッカーリーグは、青森から愛知まで計10チームが参加する日本最広域のリーグで、湘南SPREADも創設時から参加しています。これまで、青森、新潟、長野、神奈川、静岡と各地でリーグ戦を開催し、各地域の技術向上に努めています。なお、日本には現在、東日本ビーチサッカーリーグの他に、九州リーグ、中国リーグ、関西リーグがあります。

また、初心者の方に気軽にビーチサッカーに触れてもらえる機会をつくらうと、週1〜2回、東京都羽田にあるBEACHSTUDIUM東京ベイのナイター設備のあるビーチコートで、一般の方を対象としたビーチサッカー個人参加を開催しています。

そして、今年、東日本大震災の被災地を訪問。宮城県七ヶ浜町の葛蒲田浜で、ビーチサッカーと音楽のビーチフェスイベント「SEVENTH HEAVEN」を開催し、ビーチサッカーの普及活動にとどまらず、復興および地域の活性化に向けた活動も行いました。今後も、ビーチサッカーの魅力を伝

える機会作りを積極的につくっていきたいと思っております。ビーチサッカーは、トレーニングの一環として、子供たちの体幹作りに有効であり、また、サッカー引退後のフィールドとしても、注目されています。たとえば、フットサルからロナウジーニョが出てきたように、サッカーを補完する効果がビーチサッカーでも発揮されると考えています。このような新しいサッカー文化の創造に向け、湘南から貢献していきたいと思っております。同時に、競技としても結果を追求していき、OBの皆様が良い報告ができるよう今後とも頑張っていきます。

最後になりましたが、湘南SPREAD 1545は、プレイヤーを始め、活動をサポートいただける方及び団体様を募集しております。この記事を通じて、興味を持っていただいた方は、79回生櫻井までご連絡の程よろしくお願い致します。

Mail:from1985to-the-next@hotmail.co.jp



## 夏のOB会だ、 湘友会セミナーを開催

48回生 関 佳史

湘友会セミナーは、OB向けの講演会を、湘南高校歴史館を使用して行うという趣旨で2012年12月から開始されたもので、この回が8回目でした。通常は学年で主催していますが、初の部活OB会主催となった講演会は、現役70数名、OBとベガサスメンバーの70数名に加えて、湘友会関係者も出席、約150名が参加し、8月17日、湘南

高校多目的ホールで開催されました。講師は、湘南ベルマーレ・ドクターで県立汐見台病院整形外科長の鈴木英一さん(55回)、テーマは、「ロンドン五輪出場サッカー他の帯同チームドクターの視点から」。鈴木さんは、サッカー部元監督の藤塚久雄さん(54回)の手伝いで、サッカー団体選抜のドクターを引き受けたことから、サッカー・ドクターの道へ入ります。

その後、一旦仕事をやめてローマ大学に1年間留学、セリエAの名門チームASローマでの研修を受けます。そして、帰国後本格的にJリーグのチームドクターとなります。現在担当している湘南ベルマーレは、経営基盤が弱く、毎年のようにJ1とJ2を行き来しますが、昇格の喜びは何にも変えがたいものがあるとのこと。

昨年8月のロンドン五輪で4位という好成绩を取ったチームでもドクター

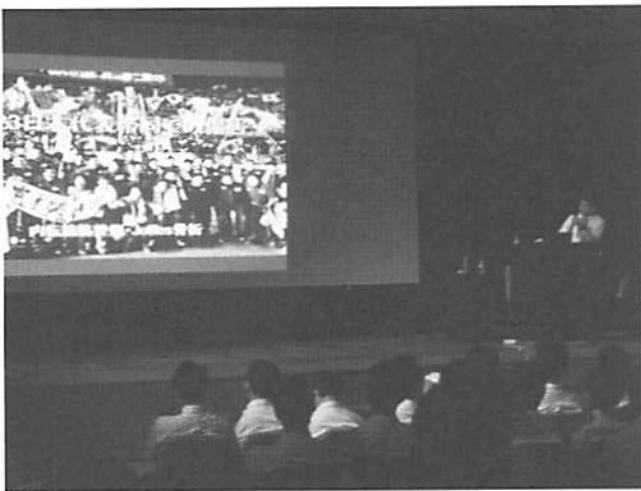
を務めました。関塚監督は情熱的で、戦う選手を評価する監督ということですが、ドクターに対しても厳格であり、要求水準が高いそうです。清武選手の例を動画で説明しましたが、手で押さえている足とは反対の足の肉離れがでるなど、試合中の怪我の見極めの難しさを、具体例で説明しました。この翌日には、関塚監督からの電話が入ったそうです。

また、手術の様子など生々しい動画も交えた1時間の講演は、映像が多用され、あつという間に終了。サッカーを題材とし、現役にもわかりやすい内容でした。講演終了後には、現役・浪人の医学部志望生徒との時間を設け、交

流を深めました。

サッカー部の夏のOB会では、サッカーを続けている会員が例年60名以上集まります。今回は、サッカーをプレイしない会員も20名ほど参加し、「グラウンドで走れない会員向けのイベント実施」という積年の課題に答えることができました。上は団体優勝の桑田孝さん(22回)が参加、聴衆の年齢差は、65年ほどありましたが、サッカーを共通項にしたOBの縦の繋がりを確認することができました。

サッカー部は、2014年3月に6回目のスペイン・ロンドン遠征を計画しています。2014年夏のOB会では、湘友会セミナーの形を利用して、「遠征の報告」を行うということを幹事会で決定しました。また、例年実施している「鈴木中先生を囲む還暦の会」スペシャル版を夏のOB会の日を実施し、広く皆さんで参加していただく懇親会を久々に開催するべく準備をしています。鈴木英一さんは、12月14日(土)、学校主催の「土曜講座」でも講演を行いました。これは、一般生徒向けのセミナーで、医学部などを志望する生徒には将来をイメージできる貴重な機会となりました。





## 2013年度 ペガサス70の活動報告

30回生 中原 弘巳

今年のペガサス70の活動予定表を見ると、年間の活動日は0-70が64日、さらに0-75のみの活動日も加えると、合計83日となります。平均して毎週1回以上、ボールを蹴る機会があることとなります。多くの会員にとって、サッカーが日常化していると言えます。

毎週火曜日に、平塚馬入の人工芝グラウンドで、県協会主催の0-70練習会を行っています。県内を主として、ほぼ40名のプレイヤーが集まります。ペガサスからも、毎回1チーム程度のメンバーが参加しています。

県内の試合は、全国大会に繋がる全国シニア神奈川リーグと県内止まりのシニアリーグを湘南、イースト、ウエストの3チームで行っています。さらに、今年の11月からは、新規にロイヤルリーグを4チームで開始しました。3つのリーグ戦があることとなりますが、前の二つのリーグがどちらかと言うと勝負を意識するのに対して、ロイヤルリーグは誰でもが参加してプレイを楽しむ

ためのものです。

県外の大会には、10大会に遠征しています。埼玉大会はワールドカップアジア予選、オーストラリア戦で使用した直後の埼玉スタジアムで行われ、観客席は空っぽでしたが、国際試合の雰囲気での試合を楽しみました。掛川でのE.C.O.P.A大会には初めての参加でしたが、関西を含めたチームとの交流をしました。刈谷大会はシニア0-60

大会の草分けとして歴史のある大会です。最近では0-70も行われています。今年で20周年を迎えましたが、湘南ペガサスは湘南OBチームの時代を含めて、第1回大会から連続参加している数少ないチームの一つです。山本修さんが20年連続出場の表彰を受けました。那須の東日本ロイヤル大会は、東北地区から、青森、岩手、宮城、福島、4チームが参加しており、東北チームとの良い交流の機会となっています。その他の、福井、熊谷、清水を含め、すべて天然芝の良好なピッチ上でのサッカーを楽しんでいます。

試合結果は、全国シニア神奈川リーグは3位となり、関東予選への出場権を得ることが出来ませんでした。シニアリーグは2位で3年連続優勝を果たせませんでした。合わせての戦績は2勝、2分け、2敗です。県外試合は今のと

ころ、10勝、2分け、4敗の好成績です。

県内試合は相手が若手中心のチームであるのに対し、県外試合では同じような年齢構成のチームとの対戦であることが理由とされています。

ペガサス70としても、若手の参加が望まれます。一方、0-70の場合、年齢の上限は有りませんので、若手の補強とともに、生涯サッカーを目指し、高齢でもサッカーを続けることが出来る環境作りが重要です。現在のペガサス0-70会員構成は、0-80が7名、0-75が13名、0-70が16名となっています。正に、生涯サッカーを実現しているチームです。今年から、0-75

の試合や練習会が、各地で多く行われるようになりました。横浜のみならず、らいサッカー場で、0-75練習会が年間19回実施されていますが、ペガサス0-75メンバーも参加しています。福井や那須の大会では、0-75のロイヤルゲームが組み込まれるようになりました。来年にかけて、0-75の活動がますます盛んになると思われます。ペガサスは0-40から始まり、順次年齢を上げたチーム作りをしてきました。いよいよ0-75のチーム作りの時期が到来しているように思います。

サッカーを長く続けるためには、怪我を防ぎ、病気になることが重要

です。しかし、怪我や病気を克服して、

見事にサッカーに復帰している方がおられます。シニアサッカーが、健康維持とともに、怪我や病気のリハビリにも役立っているように思います。ペガサス70のメンバーにとっては、今や80歳を超えて、さらにサッカーを続けることが目標になっています。



## 0-65の今シーズンの 活動状況報告

39回生 山宮 通弘

シーズン始めに監督の交代が行われ、牧村さんから矢作さんへと引き継がれました。牧村さんの強い思いもあり0-65が作られたのですが、0-65は県内での0-60リーグへの参加が認められず、県外の試合が主になっています。そのなかでもGリーグ（関東1都6県での大会）が多く那須や日立那珂・市原等各地で試合が行われました。

今シーズンの成績は3勝12敗3分けと大変残念な結果となりましたが内容的には優勢の状況から一発で後を取られて負ける試合が多くありました。優勢にゲームを支配している時に先取

点を入れておけば結果は変わっていたのにと反省させられ、悔いの残る結果となつてしまいました。

詳細報告をしますと、まず4月に行われました第12回埼玉Gリーグ(深谷)では東京と0-1・栃木に2-3と敗れました。第4回千葉Gリーグ(市原)では埼玉に0-1・栃木に1-2と負け、6月の第4回栃木Gリーグ(那須)においては埼玉に0-1・東京に1-3とここまで全敗でした。やはり押している点が入らない状態から逆襲されて点を取られる悪いパターンが負けるに繋がっている様でした。那須の翌日は千葉と0-0、栃木と2-2で漸く引き分けとなり精神的にゆとりが出て来た様に感じました。その結果7月に第11回茨城Gリーグ(ひたちなか)では水戸・古河に1-0で勝利しチームのモチベーションが上がったかと思いましたが2試合目の東京戦に0-4と大きくやられもう一度チームの立て直しを余儀なくされました。翌日水戸・古河と再度対戦し2-2の引き分け、千葉と1-2で敗れやはりディフェンスの弱さが出てしまったようです。

9月には第9回関東シニア埼玉大会(熊谷)があり対茨城1-3、埼玉けやきに0-1となりここでも失点が多い内容となつてしまいました。

11月の始めに那須で行われたGリーグ東京大会には11名ジャストでケガや故障で外れる事の出来ない状況の中、宮城に4-1、千葉に0-1と善戦しその夜の飲み会で戦略やフォーメーションについての話し合いがなされ大いに盛り上がった結果4バックから3バックへと変え守備5攻め5のフォーメーションで中盤を厚くし攻撃へのフォローをしていくやりかたで翌日の試合に臨んだ結果東京に0-1、茨木に4-1と快勝しました。東京戦7割はペガサス支配してましたがシュートが枠内に入らず決定力が無かったのです。しかしボールの回りが良くなり敵陣内での優位な状況を作って行けたのは布陣の変更に乗るものかと思われれます。このような試合を毎回行っていれば戦績も好転していくはずと確信しています。

湘南ペガサス0-65のチームは湘南OBの割合が少なく外からの方々に助けられて戦っている状態で、来年には70のロイヤルに移られる方が数人おり益々チーム人数の確保がむずかしくなる状況です。しかし来年度は60から上がってくる方が5名ぐらいいますので大いに彼らに期待しチーム力上昇を信じ共に頑張っていきたいと思つてます。



## ペガサス60活動報告

42回生 田部井 徹

ペガサス60の活動の場は例年のごとく、神奈川県シニアリーグ、全国大会県予選、県議長杯トーナメント大会が中心となっています。一昨年あたりからリーグ戦に参加するメンバーの数が増え、毎試合20名程度となっています。60チームはメンバー登録数も多いことから、65以上の方々は自主的に県外大会のカテゴリー0-65に参加するようになり、今年で3年目を迎えます。試合に参加したメンバーができるだけ長い時間ゲームを楽しむという観点からすると、望ましい運営形態だと思つています。しかしながら0-60のリーグ戦と0-65の県外大会が重なること、どうしてもメンバーが分散することになり、どちらのチームも人数が不足気味になるといふ欠点も抱えています。チームとしての方針は、試合に参加したメンバーは全員出場が基本のため、人数が集まり過ぎると一人あたりの出場時間が短くなり、またポジション決めで監督は頭を痛めることとなります。来

年度もさらに60チームへの移籍者が5名と聞いていますので、ますます60のメンバーを二つに分けた運営が必要になつてきていると、強く感じています。さて今年のリーグ戦ですが、結果は4勝2敗5分、得点7、失点7で12チーム中5位に終わりました。一昨年の優勝、昨年の4位からさらに順位を下げた原因は明確で、点が取れなかったことに尽きます。得点1の試合が7試合、得点0の試合が4試合もありました。来年はここをどのように克服するかが最大の課題です。守備面では、失点3が1試合、失点2が1試合ありましたが、失点1は2試合、失点0は7試合ですので、まあまあ守備は安定しているものと思つていきます。しかしながら、失点3を食らった「YK」には、先日の全国予選で逆に3対0で勝利し、雪辱を果たしました。こう考えると、リーグ戦は「えぼし」が11戦全勝でダントツトップですが、後ほどどんぐりの背比べ状態と言えます。その「えぼし」に対しても、全国予選では何とか0対0の引き分けに持ち込むことができました。その原因は、現在ペガサス55で活躍中のGK佐藤君の参戦です。来年は60チームに移籍することが決まっていますので、久し振りの正ゴールキーパー誕生となります。今

期失点の半分以上がなくなりそうで、来年はまたリーグ優勝が狙える環境が整うこととなり、大いに期待できそうです。

全国シニア県予選は、今年も10チームが参加してリーグ戦で行われることになりました。現時点で1試合を残して、8戦して2勝1敗4分1不戦敗、得点6、失点4で5分の成績です。不戦敗については、日程が何度か変更になったために連絡の不徹底が発生し、開始時刻に間に合わなかったことが原因で残念です。残るは県議長杯トーナメント大会です。12月7日に1回戦が予定されていますが、これに勝利して、何とか来年の2回戦以降につなげたいと思っています。そのためにもメンバー各位の試合に向けた自主トレに期待したいところです。

その他にも県外大会に参加していますが、今年も0-60としては4月の埼玉大会、千葉大会のみの参加に終わりました。戦績は4戦して1勝3敗で負け越しです。県外大会になると参加人数は何時も少なく、非常に厳しい試合を強いられています。もう少し多くの仲間に参加してもらいたいと思っています。

また0-65の活動につきましては今年で3年目となりますが、活動の主体

は県外大会です。今年はGリーグ埼玉大会から始まり、千葉大会、栃木大会、茨城大会、東京大会、さらには関東シニア埼玉大会に参加し、18戦して3勝12敗3分、得点19、失点29という成績に終わりました。0-65の大会は、ペガサス60のメンバーだけでは成り立たず、外部からの応援をもらう形で何とかメンバーを確保して臨んでいるのが実態です。こちらもメンバーはギリギリで、1泊2日の大会になると、怪我人が出せないくらい厳しい状況が続いています。結果は大きく負け越していますが、1点差の試合が9試合あり、これを何とかできれば、勝率を大きく向上させることができると思っています。最近の試合は若手メンバーの参加もあり、互角以上の戦いが展開できています。年齢的に資格を有する方は、是非0-65大会への参加をお願いします。県外大会には県内の試合とは違った雰囲気があり、とても楽しく面白いものです。0-60を含め、来年はもう少し明るいニュースが書けるように努力したいと思います。

## ペガサス55活動報告

49回生 菅浦 義治

昨年に引き続きペガサス55の監督を仰せつかっている49回菅浦です。ペガサス55の今期の戦績は、あまり書きたくないのですが、詳細はシニアリーグ及び県協会のホームページを閲覧していただければと思います。昨年度に比べて若干戦績は上がりました。(といっても、昨年度はリーグ戦・全国シニア予選とも最下位で0勝、これ以上悪くはないのですが)リーグ戦16チーム中15位、全国シニアも最下位を免れていません。みつともない戦績はこれくらいにして、本題に入ります。

昨年も書いたかもしれませんが、特に50回生以下で40歳以上の方、ペガサスと一緒にサッカーをしませんか。私と一緒にピッチに立って湘南高校創立100周年の記念蹴球祭を迎えませんか。(その時49回の私は多分65歳だと思っています。)私はそれを目標に健康に留意するとともに、サッカーをできる身体を維持するためペガサスでプレーしています。ペガサスの試合は年間20試合

以上あるので、それにすべて参加せよとは言いません。健康を維持し湘南高校創立100年でサッカーをするためにペガサスでサッカーをしませんか。少なくとも3月の筑波大付属定期戦、11月のFKS(付属神戸・湘南の略です)と、仙台一高OBとの定期戦?ぐらいは、湘南サッカー部のOBだけで試合を組みたいのです。(相手の高校OBもそうしているので)前述したFKSは数年前まではFUS(Uは浦高)だったのでありますが、浦高OBが集まらず、神戸高校OBに代わってしまいました。湘南OBもこのようになっては、諸先輩方々が積み上げてきたものをこわして申し訳ないという気持ちも勿論ですが、それよりも淋しい気持ちのほうが大きいです。昔の仲間と軽く試合をして、特にFKSは芝生の良いグラウンドでサッカーをして、そのあと一杯やるのもとても楽しいです。

私は鈴木中先生のおかげもあって、千葉県サッカー協会の監事を仰せつかっておりますが、千葉県協会の技術委員である県立千葉高サッカー部監督藤原明夫氏から、湘南高校のOB組織をほめていただきました。そのような素晴らしい組織である湘南高校OB会の行事に参加するためにも、ペガサスで1試合でも多く参加し、健康なサッカーのできる



## ペガサス50活動報告

ペガサスシニア50監督 吉田 京太

今年の神奈川五十雀リーグ1部での戦績は、6勝3分2敗の勝ち点21で3位でした。優勝した横須賀シニア（7勝3分1敗）に唯一の上をつけ、一時は自力優勝も見えていただけに、悔しい結果でもあります。負けた2試合とも圧倒的に攻めながら、1点がとれず、逆に速攻から1点を失うパターンだったのが心残りです。まあ、負ける時そんなものですが。

全国シニアリーグは、7戦を終えたところで、4勝1分2敗です。新メンバーとの連携が整わないうちの開幕戦につきまずき、続く2戦は人数がギリギリ（第3戦は9人でしたが引き分け）で3戦を終えて勝ち点1という散々な状況でした。その後は新戦力も融合し、苦し

身体を維持することは素晴らしいことだと思えます。しばらくサッカーをしていない方は恐いかもしれませんが、老後の趣味として、細々と、死ぬまで私と一緒にサッカーしませんか。

みながらも4連勝しただけに、返す返すも序盤戦が悔やまれます。

今年、特筆すべきは、守備の安定です。とりわけ、神奈川五十雀リーグでの失点は全11試合を通じて6点のみで、複数失点した試合はありませんでした。GK、BKの奮闘が一番の要因ですが、それだけでなく、FW、MFの前からの守備も効いていたと思います。

もうひとつは、ポゼッション力のアップです。昨年までは、FW陣の足の速さや個の強さをいかして速攻からの得点を狙うことが多かった気がします。今年にはむやみなクリアはせず、できるだけボールをつなぐ（そのためには、パスを出した後もボールがもらえるところに顔を出す必要があります）ことを試合前に確認し、実際、多くの試合で主導権を握る展開になりました。結果はリーグ3位でしたが、こうした戦いをできたことが、今年の最大の収穫だったと思っています。

人数不足には苦しみました。神奈川五十雀リーグの方は割合集まるので大丈夫ですが、資格が異なる全国シニアは深刻でした。連戦だけが人も多く出る中、苦しいやりくりが続きました。

現在のペガサスシニア50のメンバーは、ペガサスジュニアのころから一緒にやっているメンバーも多く、それが互い

の特徴を熟知し、つなぐサッカーを可能にしているとも言えますが、主力メンバーの大半が55歳を超え、来年はまた1歳、高齢化します。このままでは来年の苦戦は免れないのではないかと懸念されます。若手新戦力の台頭を願うばかりです。

\*編集部追記 吉田京太監督は、慶応大学サッカー部で八木啓太さん（52回）とともにプレーし、40雀から、ペガサスに参加しています。



## ペガサスジュニア

### 活動報告

66回生 吉田 孝博

湘南サッカー部での3年間を終え、浪人中と大学1年の2年間、僕はボールを蹴るのも見るのも遠ざけていた。2つ上の学年、僕が1年生の時には全国大会に出場したのだが、自分が3年生の最後の選手権予選は、シュート数40対2で0-1の1回戦負けを喫した。敗戦自体もショックだったが、以後しばらく、「お前の代が1回戦負けの代だよな」といわれることが嫌で、「サッカーはもういいや」と、目を背け、遠ざけ

ていた。

結局、やっぱりサッカーが好きだしやりたいし、そういう自分が自然な姿だと改めて思い、大学2年から体育会に入りサッカーに復帰することになったのだけれど、復帰初日の練習は嘔吐するほど全てが鈍っていたけれど、でも、サッカーに向き合うことを通じて自分と向き合えたことは、遠回りばかりではなかったし、大事な経験と時間だったと思っている。

そんな風に、勝手に肩身の狭い思いを抱いていた湘南サッカーにも、大学卒業後は迷わずトカルチョに加入し、最後は40歳まで「オッサン選手」として若手に面倒を見てもらい、今年からは一番若い「オッサン」として、ペガサスジュニア参戦に至っている。仕事や家庭との両立・やり練りが難しい中でも、でも勝負にこだわって頑張りたいという欲求の中での、しかも40代という（下りの!?）坂道の中でのサッカーは、これまたなかなか興味深く感慨深い。当時は偉大だった（あ、今でも偉大です！）先輩たちを、今度は自分が引く張ることを求められたり、頼りにしてもらったり、あるいはペガサスで初めて一緒にプレイするメンバーも含め、そういった新たな信頼関係を築いていくことは新鮮で、それらは新たに自分を刺

激してくれる、意味ある価値あるものだと感じている。ましてや高校時代の1回戦負けなど、「ちっちゃいちっちゃい、クソ食らえだ」と(笑)。いや、マジメに言えば、悔しさも劣等感も、無駄になった思いなんて一つも無いよなと、今に活きていると思う。

それぞれが多忙な中、時間を見つけてトレーニングし、コンディション上げてチームとして戦っていくことは、大変だけれども楽しい。チームとして高めていくこと、互いをカバーしてフォローし合うこと、そうして信頼を築いて積み上げて、それらの想いを仲間と共有し確信できることは、嬉しくて素敵なことだ。もちろん上手いくことばかりではないけど、悔しい気持ちも、味わえるうちは味わいたいと思えるチームや仲間があることは、幸せだなと思っている。

3部優勝、2部優勝と先輩方が押し上げてくれたので、今季は1部での戦いとなり、僕自身も意気込んで臨んだシーズンだったが、最終節まで優勝の可能性を残し、事実点差次第では優勝という状況ではあったが、結果としてはドローに終わり、4位が最終順位となった。僕自身も怪我を負い、充実感はないつつも、残念さと悔しさと、且つ宿題が残ったベガサス1年目となった。これからも長く湘南でサッカーを続

ける中では、順風ではなく苦しむシーズンもあるだろうと思う。トト時代も、二度目の一部昇格までは苦しかったし、一緒にやった後輩たちが今も苦労しているけれど、湘南サッカーの仲間、同士としてプレイを続けていく中で、僕を迎え入れてくれたベガサスジュニアのチームと先輩方のように、いずれ僕も後輩たちを迎え入れたいと思うし、良き想いを受け継いでいきたいと思っている。

来季へ向けて、残念ながら怪我のりハビリには少し時間がかかりそうだけれど、必ずやチームの力になり貢献できるよう復帰することを誓いつつ、湘南サッカー部への感謝と愛情をここに伝えたい。



### トトカルチヨ湘南

## 2013年度報告

82回生 篠塚 貴志

湘南高校OBの皆様、いつも大変お世話になっております。トトカルチヨ湘南の篠塚貴志(82回)です。私事ですが、今年の4月によく社会人になり、同時に6年間継続した湘南高校サッカー部のコーチとしての活動を一区切り

させて頂きました。コーチとしては力不足で至らない面が多々あったかと思いますが、先生方や多くの先輩・後輩・同期に支えて頂きながら湘南高校サッカー部とともに成長をさせて頂きました。大変充実した6年間を下さった皆様に大変感謝しております。誠に有難うございました。

本題のトトカルチヨ湘南の活動報告をさせて頂きます。現状ですが、トトカルチヨ湘南は数年前に神奈川県リーグ2部から3部に降格して以来、何度も昇格戦に進出するも入替戦に敗れ、昇格できずにいます。今年こそはと臨んだ2013年度でしたが、今シーズンも重要な試合で負けてしまい、人数が揃わず不戦敗となることもあり、昇格戦への進出は成りませんでした。なかなか良い報告ができず、毎年の報告が辛くなってきました。

しかしながら今シーズンは来年の2部昇格に向けて手応えのあるシーズンであったと感じています。昨年から継続して新規加入選手が増えており、特に大学生の小林諒太郎、大川、宇喜多、中戸川、野崎、濱田、長らの継続的参加により、安定した力を発揮できるようになってきました。シーズン序盤は守備が安定しませんでした。終盤は前線から最終ラインまでが一体となっ

た守備ができ、質の高い守備から生まれた攻撃により確実に得点を重ねることで安定した強さを発揮できました。その結果、10月・11月には2部から降格してきた美蹴団に6-0、新規登録のパビノスというチームに6-1で勝利しました。毎年シーズン序盤に良い結果を出せていないため、来年度は初戦から力を発揮できるように準備をし、2部昇格を果たしたいと思っています。

最近ではビーチサッカーで活躍している若手OBのチームもありますが、トトカルチヨ湘南も負けずに良い成績を収めていきたいと思えます。そして現役の強化にも貢献できるようなチームになっていきたいと思えますので、今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願いたします。

トトカルチヨ湘南は多くの若手OBの参加をお待ちしております。若手の皆様、是非トトカルチヨ湘南で大学生・社会人を通して継続して楽しくサッカーをしましょう。



### ご報告

監督 小林 周太郎



今年度も、多方面にわたりました。ご支援をいただきありがとうございます。

昨年度の選手権予選敗退後、チームを作っていく過程で大敗し苦しむ時期もありましたが、試行錯誤しながら徐々に個人の力が高まり、試合の中でチームとして良い時間を作れるようになっていきました。が、春先の公式戦は、相手に主導権を握られ、粘りきれずにミスから失点をするというパターンが続き、ここ数年になく早期の敗退をしました。それでも三年生29名全員が選手権予選を戦い抜いてくれました。こうなっているから、4年目となり、夏前に部活をやめる選手はいなくなり、1年間同じ方向を向いて練習できるチームにはなっていると思います。そして今回の選手権1次予選は、何とかチームで粘って、3回戦までをすべて1点差でしのぎ、何とか2次予選へと進出しました。選手権2次予選は、夏の成果をまったく出せずに初戦で敗退してしまいました。結果としては残念ですが、湘南高校に赴任して6回目の選手権予選、関わった6学年ともに、選手権が一年間で一番勝ち上がった大会となっていました。ここは、湘南らしくて良いことと思っています。が、もつと上のレベルで戦わせたいです。何とかします。

得点を奪うことができなかったことを反省点として新チームのスタートをしました。練習試合では、県16クラスなら勝てますが、プレミア、プリンス、KS上位クラスとの試合では、得点は取れますが、守備は崩壊、現状、そのレベルとは2点差負けの試合が続いてしまっています。守れるようになるかが勝負です。

また、現役部員には文武両道を目指すように伝えていきます。それは、文武両道とは終わりのない究極の道であって、何かをすれば達成する到達点があるわけではないという意味です。周りがどう思っているかが、自分もつと高みを目指すのだと。自分は文武両道だと思った瞬間、その道は途絶えてしまっているのではないかと。そう考えるように伝えていきます。しっかりと自立した選手であるならば、進学校であっても部活動が学習の邪魔になるわけがなく、今のユース年代の年間カレンダーからしても、トップリーグの最終節が12月初旬になっているなど、サッカーで結果を残すには、それが当たり前だという選手がそろわなければ、強くなることは出来ない時代となっています。

最後に、今度の3月には6回目を迎える海外遠征が計画されています。事前英語研修を含め、OB会のご支援

がなければ実施できない遠征でありま。選手たちがより多くの視点から学び、感じ、今後に活かせるような遠征にしていきたくないと準備しております。今後ともよろしくお願いたします。



## 現役報告

橋本 巖

今回、現役報告をさせていただく橋本巖です。OB会の皆様の心強いご支援のもと、日々充実した活動が送れること、大変感謝しております。このご支援にお応えできるよう、しっかりと結果を残していきたいと思えます。

3年生が引退して、約2ヶ月が経ちました。新チームでは、小林先生のご指導のもと「心・技・体」のうち、「心」の部分にも力を入れていきます。全員が、最大の目標から今すべきことまでを各々考え、練習や試合に臨むときの「心」を大事にして、より意味のあるものにして努力していきます。

最近では、強豪チームと対戦し、なかなか勝ちきれはいいませんが、確かな手応えは感じています。今は勝てな

い相手であっても、着実に力をつけ、後の大会では、撃破していきたいと考えています。また、失点が多いことは課題の一つです。湘南サッカー部の特徴でもある「粘り強い守備」を再確認し、徹底して勝てるチームにしていきたいです。まずは、1月の新人戦に向けてチーム一丸となり、練習に励んでいきたいと思えます。

またOB会の皆様のご支援による海外遠征が、3月に予定されています。サッカーの技術を学べるだけでなく、世界の文化に触れ、自分たちの視野を広げられることは大変幸せです。遠征中にたくさんのお話を吸収し、帰国後は体験したことを活かし、日々邁進していきたいと思えます。

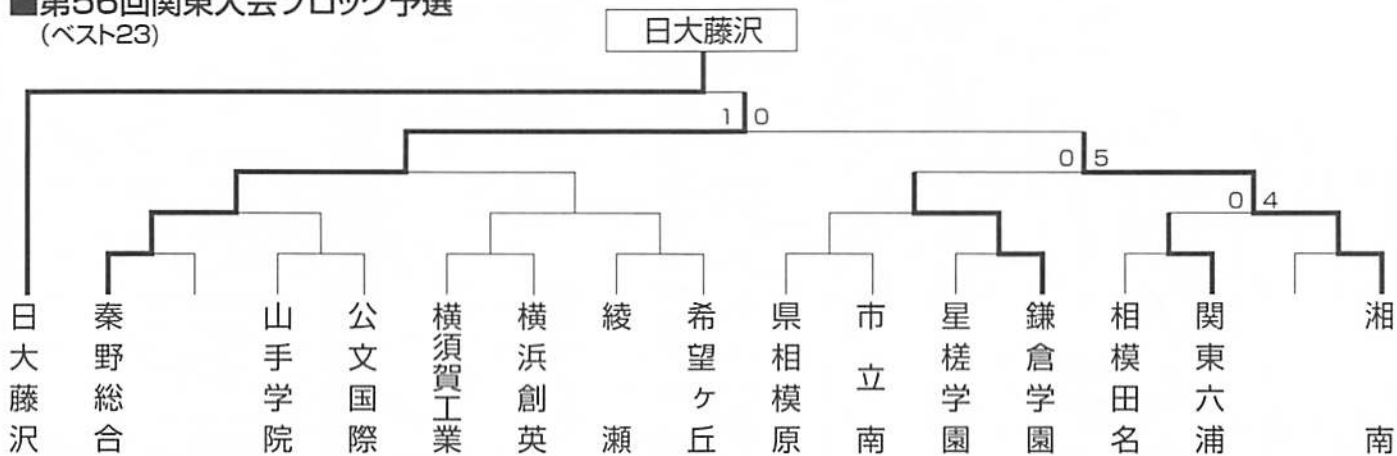
部員一同、小林先生にご指導いただき、勝つことを念頭に置いて、活動していきたいと思えます。OB会の皆様には、これからも、変わらぬご支援をよろしくお願いたします。

\*編集部追記

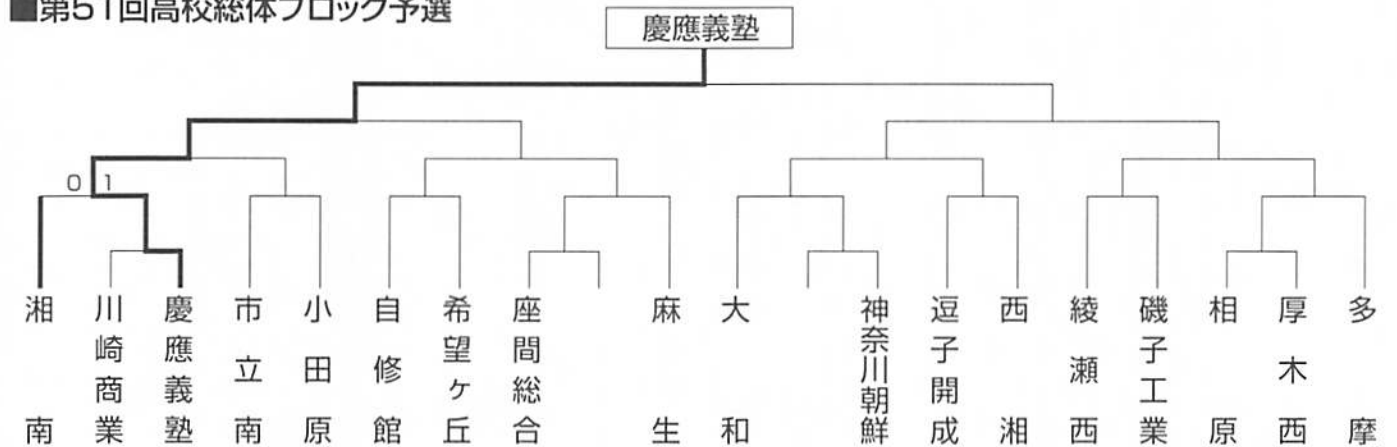
関東大会は1、2

回戦を大差で勝ち抜いたがブロック準決勝で敗戦。総体では、初戦で慶応の一発にやられた。選手権は1回戦からとなり、川崎北、難敵の向上、山手学院、海老名に連勝して、二次予選まで進む。二次予選では百合ヶ丘にまさかの敗戦だった。

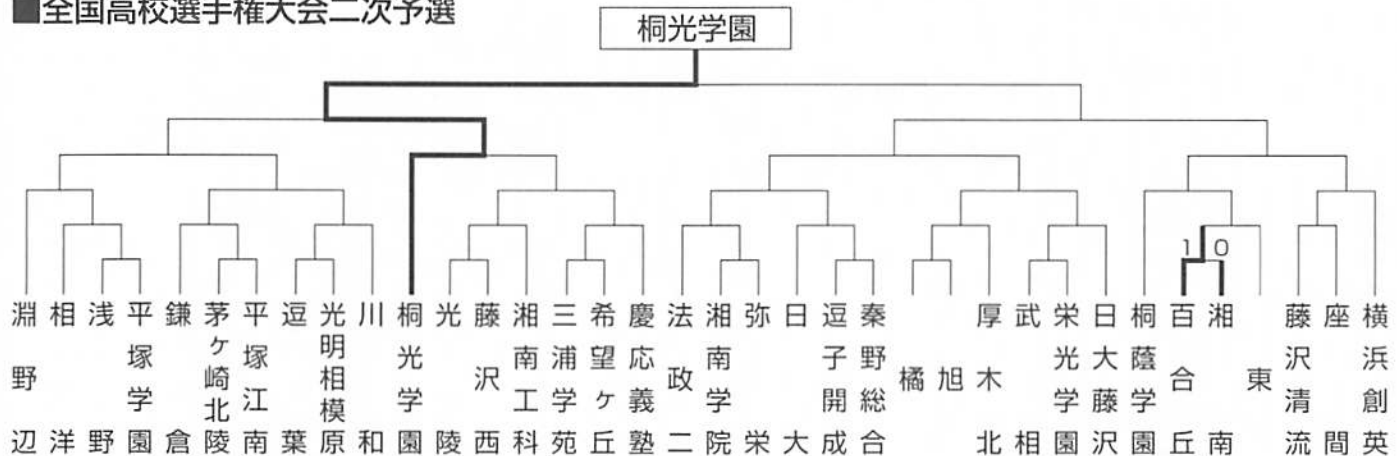
■第56回関東大会ブロック予選 (ベスト23)



■第51回高校総体ブロック予選



■全国高校選手権大会二次予選



清水先生は、川和高校の非常勤を経て、最初の赴任校の藤沢西高で、選手権出場、多数のJリーガー輩出など大きな成果を生み出しました。また、国体県代表監督を3回務め、中村俊輔選手を指導するなど、輝かしい経歴の持ち主です。湘南高校では、スペイン遠征を開始するなど、現在の湘南高校全体の活動の先駆けとなるような革新的な指導をされました。

清水先生は、川和高校の非常勤を経て、最初の赴任校の藤沢西高で、選手権出場、多数のJリーガー輩出など大きな成果を生み出しました。また、国体県代表監督を3回務め、中村俊輔選手を指導するなど、輝かしい経歴の持ち主です。湘南高校では、スペイン遠征を開始するなど、現在の湘南高校全体の活動の先駆けとなるような革新的な指導をされました。



○清水好郎先生の  
ご定年のお祝いの会  
1997  
年4月から  
2008年  
3月まで、  
11年間湘南  
サッカー部で  
監督をしてい  
ただいた清水好郎先生のご定年を祝う  
会が、教え子有志により、11月24日に  
開催されました。この会は、藤沢西高  
のOBが主体となって準備を行い、湘  
南OBにも呼び掛けて実施したもので  
す。当日は、藤沢西高が110名あま  
り、湘南が30名あまりの出席でした。

事務局便り

清水先生は、現在、二宮高校に勤務されており、継続してしばらくの間は、同校の指導をされるとのこと。来賓の三村格一さん（元日本代表）は、「高等学校の枠にとらわれず、さらに日本サッカー全体の指導を期待する」というご挨拶をされました。清水先生の、さらなるご活躍を祈念いたします。

### ○学年幹事

一昨年の90周年記念の時に、名簿の整理を行い発行することができました。この時に鈴木中先生の教え子世代（37回〜65回）については、学年幹事を決めることができました。しかし、その下の藤塚先生、清水先生の教え子世代については、決めることができていません。

今回、清水先生に教わった73回（1998年3月卒業）〜84回（2009年3月卒業）について、学年幹事を決めたいと思います。まず、仮幹事をOB会事務局が指名します。2014年3月末までに各学年で、幹事を決めて下さい。なお、学年幹事の事は、各学年の名簿管理をお願いします。同期の住所、連絡先の把握を役割とします。

### 仮幹事（敬称略）

73回…亀田光二、74回…森下誠、75回…友松茂、76回…藤巻由太、77回…比

留間貴志、78回…黒鳥俣作、79回…櫻井大輔、80回…橋本論、81回…田村仁、82回…篠塚貴志、83回…小松昌平、84回…船山春樹

来年度には、藤塚先生、小林先生が教えた世代についても学年幹事を決めて行きたいと思っています。

### ○筑波大付属戦

2014年3月16日（日）に筑波大付属で実施の予定です。このところ、40歳以上のOBの参加が少ないので、ぜひ、ご参加ください。

### ○スペイン遠征に向け

#### 事前研修を。森君に感謝。

2014年3月に現役のスペイン遠征が行われます。丸10年、6回目です。回を重ねることに交流も充実し県教育委員会からも高い評価を得ています。今回はより有意義な交流が出来るよう事前研修を行っています。46回の森君が講師として、各回テーマを決め充実した、内容の濃い研修をしてきています。すでに5回終了し、あと3回予定されています。

お忙しい中、森君ありがとうございます。

尚、今回同行のOBは、40回山田、41回相羽、45回浅倉、46回森、55回鈴木、88回長の予定です。

# グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

## 【蹴球祭・総会のご案内】

期日：1月12日（日） 場所：湘南高校（グラウンド、清明会館）

普段サッカーをしていない方、運動不足の方も楽しめるマッチングをします。是非、お越し下さい。

清明会館和室（総会会場・着替えの場所）に、永らくOBが保管していた資料（スコアブック、雑誌、記念品他）の一部を展示いたします。是非ご覧ください。  
「歴史館」の倉庫には一般資料の中に、サッカー部として持ち込んだ資料が残っています。夏のOB会までには抜き出し展示するつもりです。

09:30～10:50	現役 VS トトカルチョ
11:00～12:00	総会 幹事会はその前 9:30～
12:15～12:30	現役交歓式
12:30～13:30	食事
13:30～15:30	40以上 OB紅白戦 2面使用 着替えは清明会館和室使用)

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄って下さい。  
※受付は総会終了後 12:00 から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

## 【平成26年度 会計報告・予算案】

### 収入

	25年実績	26年予算
会費	1,142,000	1,210,000
前年度繰越	789,370	308,036
スペイン遠征（前年度から）	—	300,000
計（利子91含む）	1,931,461	1,818,036

※収入見込み 社会人 130名、学生 20名が納入 10,000×100名+ 5,000×30名+ 3,000×20名

### 支出

	25年実績	26年予算
現役寄付（付属戦補助含む）	500,000	500,000
蹴球祭	83,000	100,000
夏講演会謝礼等	22,834	—
スペイン遠征補助（次年度へ）	300,000	700,000
通信・事務費	207,591	100,000
印刷費	210,000	150,000
100周年積立へ	300,000	200,000
繰越金	308,036	予備費 68,036
計	1,931,461	1,818,036

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、昨年度より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしくお願いいたします。現在積立金は、¥500,098-です。

また、100周年事業に対しては、「事業委員会」を作り早めに検討・準備を進めた方がよいと思われます。各代（特に60才以下）に委員への立候補を強く希望します。改めて委員への参加をお願いをさせていただく事もあります。その折は、是非よろしくお願い申し上げます。

### 現役寄付・会計報告 平成24年11月1日~平成25年11月12日

収入		支出	
前年度から繰越	391	合宿補助（コーチ等）	152,476
寄付	500,000	トレーニング用品等	66,955
その他	6	筑波	25,000
計	500,397	会場・グラウンド使用料等	167,706
		参加費等	21,130
		スペイン	0
		ボール	31,620
		コーチ代	35,000
繰越金	510	計	499,887

## 【26年度会費納入の件】

25年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人 1口 5,000円


・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166  
 湘南高校サッカー部 OB会  
 武藤俊一 TEL. 0466-34-9329

### お問い合わせ・ご質問は

#### 【ホームページアドレス】

湘南高校サッカー部  で検索。

湘南サッカー部OB会  
<http://www.shonan-soccer.com>

#### 【メールアドレス】

関 佳史（事務局）  
[seki6644@yahoo.co.jp](mailto:seki6644@yahoo.co.jp)

武藤俊一（事務局）  
[muto-s@jcom.home.ne.jp](mailto:muto-s@jcom.home.ne.jp)

横山雅行（事務局）  
[m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp](mailto:m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp)